

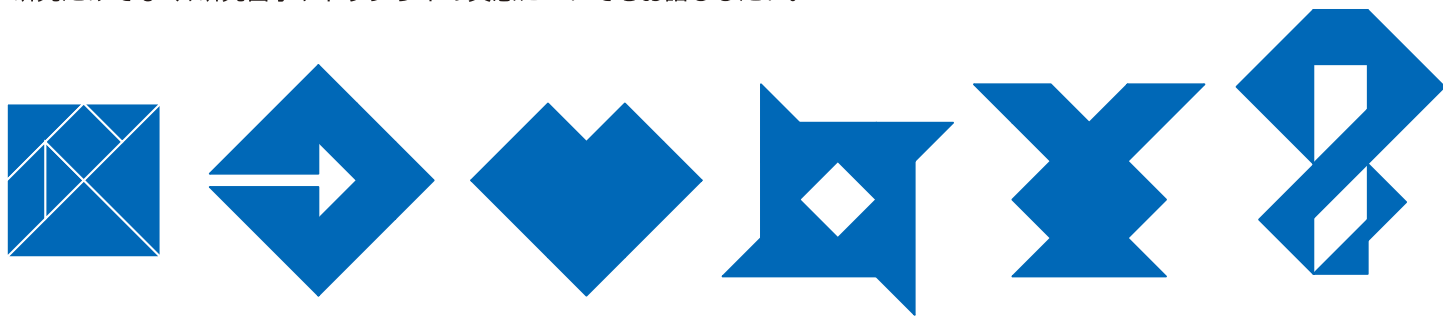
# 平成27年度 第8回 応用動物科学セミナー

## 受精卵における 精子エピゲノムの リモデリング機構

井上 梓 博士

Harvard Medical School/Boston Children's Hospital

この広い生物界を見渡しても、「受精」ほどクロマチンがゲノムワイドに新しく獲得される場は存在しない。そのため、受精卵はクロマチンの機能やエピゲノムのリプログラミング機構を探る上で格好の実験モデルとなる。私はマウスの受精および着床前初期発生を、精子クロマチンのリモデリングの場として捉え、卵マテリアルが引き起こすその機構を研究している。本セミナーでは自身の研究だけでなく、研究留学やトップラボの実態についてもお話ししたい。



● 11月24日(火) 16:00 ~ 7号館B棟231/232号室

● 本セミナーは動物科学のフロンティア(修士課程)/動物科学フロンティア(博士課程)の講義1回分としても認定されます。履修者は、セミナーの内容についてレポートを作成の上(様式は自由)セミナー終了後2週間以内に下記担当教員まで提出すること。

● 問い合わせ/レポート提出先:

応用動物科学専攻 応用遺伝学研究室 杉浦 幸二 准教授

☎ 03-5841-5195

✉ aks@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp